

# Risk Flash No.179 (Vol.5 No.21)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- リスク管理の視点：富士登山で感じたリスク管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
- 研究紹介：山田和代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2

## リスク管理の視点

### 富士登山で感じたリスク管理

くぼひでや  
リスク研究センター長 久保英也

ゼミ生 15名と共に、世の中の夏休みが一段落した9月1日、2日に富士山に登りました。富士山は見た目女性的で穏やかであり、また、マスコミが富士登山は軽装で若いも若きも万人が登れる山というイメージを醸し出しています。ただ、標高 3,700メートルを超える高山と容易に登れそうなイメージは、正直、つながらないまま登山口である 5合目吉田口に立ちました。

天候はあいにくの雨。しかも登頂は夕刻からで 6合目を超えるあたりからは懐中電灯を点灯させながら登る状態でした。御多分にもれず当初はオーバーペースでガンガン登りましたが、7合目にかけては、岩場や大きく足を上げないと越えられない階段など状況は厳しくなる一方でした。暗闇の中、小さな自分の懐中電灯を頼りに、冷たい雨に打たれながら急峻な岩場を登る状況からは、万人が登れる山というのは明らかに嘘であると確信しました。しかも登山道は上りと下りが別で、上りの登山道を降りるということはず、とにかく登るしかないという状況で、我々のパーティも他のパーティも雑談の声が消え、希望は上に見える山小屋の明かりだけでした。

それでも何とか宿泊予定の 8合目の山小屋に到着しましたが、下着にまで侵入した雨と低温による体力の消耗、そして酸素の薄さ（これは個人差があるようでしたが）に疲れ果て、2時間ばかりの仮眠に入りました（ツアー計画は 22時 30分頃山小屋到着、仮眠後 1:30頃出発、山頂で御来光）。

何時間寝たのかわからない中で、急に山小屋の責任者から、山頂は風が強くこれから山頂を目指すのは危険との話がありました。頂上の気温は 3度、風が風速 10メートル以上で体感温度は氷点下。予想外の展開にここまで来たのだから頂上まで登りたいという気持ちと体が冷え切り体力的にも限界という気持ちが各人の中で交錯し、頭の整理ができなかったのは私だけではなかったと思います。

この時、不思議なのですが、一つだけ冷静に考えられたことがありました。それは、「我々が置かれている状況とそのリスク」でした。私も含め 16名のメンバーのうち 1名でも登れない人が出れば、おそらく全員が途中で下山することになります。その時、冷たい風に吹かれながらその行動は可能なのか？

我々のパーティは登頂をここであきらめようと思った瞬間、山小屋の責任者が、宿泊している「全山小屋」の「全登山者」に山頂を目指すことを禁止するとの指示を出しました。あの時自由登頂を許していたら、素人が多い登山者に想定外の事故が発生していたのではないか、また私のパーティの中にもやはり山頂まで登りたかったという思いを持つ人が多かったように思いました。我々はリスク・マネジメントを学習しているゼミで、リスクを冷静に分析したかもしれませんが、これだけのリスク回避の「決断」が自分でできたかは自信がありません。

登山道や救急体制などの整備されたインフラが富士山の強みですが、登山者に気付かれず、安全かつ楽しく登山させる山小屋を守るプロたちの存在が富士山を世界遺産ならしめていると思いました。

## 研究紹介

先進国日本にみる若年女性の貧困—インド・ハイデラバードでの学会報告から

経済学科教授 やまだかずよ 山田和代

今夏、インド南部中央に位置するハイデラバードで開催された Women's Worlds Congress に出席してきました。初めてのインド訪問で、出発前は現地の雨期情報やマラリア対策を気にかけていただきましたが、天候に恵まれ、体調を壊すことなく有意義な滞在となりました。この国際大会は“Gender in a changing world”をテーマに、世界各国から経済学、政治学、社会学、歴史学など様々の専門領域の研究者が集まり、750本におよぶ研究報告と熱い議論が交わされました。

大会では、2012年から私が参加している共同研究「経済危機下における若年女性層の労働と生活に関する調査研究」（大阪府立大学・伊田久美子先生（研究代表）、大阪府立大学・熊安貴美江先生、神戸大学・中原朝子先生、山田）の成果の一部を、報告タイトル“Precarious Living of Young Women in Japan”として発表してきました。

先進国日本でも貧困問題が指摘されて久しいですが、私たちの共同研究では若年女性について特に家族に包摂された若年女性の貧困について、若年男女2000人のアンケート調査からその実態を報告するものでした。分析結果から見えてきたのは、結婚が必ずしも女性の収入の乏しさをカバーする安定的な家計を保障するものでないこと、パートナーがいる女性でも貧困群に留まること、パートナーがいる女性の「暴力をふるわれる怖れを日常的に感じている」という比率が全体で2割をこえていたことでした。さらに貧困群に位置する女性の場合、「暴力をふるわれる怖れを日常的に感じている」ことが幸福度を下げることに対し、非貧困群では「暴力の怖れ」は幸福度に関連しないことが把握できました。

労働市場では安定的な正社員という雇用は学卒若年層にとって、かつての様に誰もが獲得できる職業経路ではなくなっていますが、さらに家族も一様に安定的家計を保障しているわけでもなく、そこには「暴力の怖れ」が場合によっては共存し、その恐れは女性の収入の違いによって彼女たちの幸福度への影響の相違をもたらす現状が浮かび上がってきました。

日本が抱える貧困問題は雇用の場だけでの問題ではなく、家族という日常生活に巣くう問題をも生み出しており、家族機能に期待する早急な問題解決策には留意が必要です。先進国日本の貧困問題はこのような段階に達し、現状をいかに打開していくべきかという認識を強くした学会参加でした。

## リスク研究センター通信

### 経済学部就職情報のご案内

本学部学生は、自身の志望進路をめざして積極的に活動を行い、幅広い業界に就職しています。本学部の就職支援体制の特徴は、

1. 正課キャリア形成プログラム、
2. 就職支援プログラム、
3. 専門演習（ゼミナール）を単位とした就職支援、

の三つを柱とし、これらの取り組みを経済学部同窓会（陵水会）が強力にサポートしている点です。詳しくは <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=13:5> をご覧ください。

### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・変更して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

※尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

※当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

**発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター**

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、  
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月～金 10:00-17:00）  
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

**e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)**

**Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>**